

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第241号 2014年7月19日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2014



写真：滝脇 綾(生活科学部人間生活学科3年)

Sapere aude! (知る勇気を持つ)

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--|---|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2
平成26年度 入学式学長告辞 | 附属学校園からのお知らせ…………… 7-8 |
| 学生のアクティビティ…………… 3-4 | キャンパス点描…………… 9-10 |
| 教員紹介…………… 5
● 難波 知子先生
(人間文化創成科学研究科文化科学系) | ● お茶大女性ビジネスリーダー育成塾: 徽音塾の
開講式が行われました。 |
| 卒業生紹介…………… 6
● 鶴沢 美穂子さん
(理学部生物学科卒) | ● 第6回 ホームカミングデイを開催しました。 |
| | ● みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者
奨学金授与式を挙行了しました。 |
| | ● 平成26年度 高校教員等(高校・予備校)向け
オープンキャンパスを開催しました。 |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

平成26年度 入学式

学長告辞



新入生の皆様、入学おめでとうございます。

ご家族はじめ関係の皆様にご入学のお祝いを申し上げます。

また、御来賓の皆様にはご臨席をいただきましてまことに有難うございます。

本日入学された学生の皆様には、この大学の環境を存分に活用して、自らを磨き鍛え、自分を成長させていただきたいと思いを。

お茶の水女子大学は、国によって設置された最も伝統のある女子大学です。本学の前身は、明治8年(1875年)に開学した東京女子師範学校ですが、その後名称を変えつつ、東京女子高等師範学校を経て、1949年に新制大学お茶の水女子大学となりました。

創設から数えて来年が140年になります。

創設時は湯島(御茶の水)に校舎があり、当時「お茶の水の学校」と呼ばれていたことから、新制大学になる時に「お茶の水女子大学」という名称にしたといわれています。

現在お茶の水女子大学がこの大塚にあるのは、1923年の関東大震災によって校舎を焼失したことが大きな要因です。震災の9年後(1932年)にこの地に移転し、そのときにこの大学本館と附属幼稚園が建設されました。

大学本館は、附属幼稚園、正門とともに、国の有形文化財に登録されていますが、建物の外壁にはスクラッチタイルが貼られ、玄関には大理石が敷かれています。それらは当時の最高級の素材で作られているそうで、このことは、本学の教育に対する当時の社会的期待の表れともいえます。

新制の国立大学として「お茶の水女子大学」の設置を求めた際に文部省に提出された文書には、次のように記されていました。(注)

「我が国に最も欠けていてその養成を切望されているのは各分野にわたって指導的地位に立つ女性であります。かかる女性を養成するのが本学の使命とするところであります。」(第八項)

「文化の程度が進めば、指導的人物は単に総合的な教養のみを修得した者の間からは求め難くその教養には専門的攻究の裏付けを必要とすることは明瞭であります。」(第九項)

つまり、女性リーダーの養成が必要であること、指導的立場に立つ人物には教養だけではなく、同時に専門性を備えて

いなければならないことが記されていますが、このことは現在でも変わることなくこの大学の使命です。

とくに今、社会はこれまでにないほど女性の活躍を期待しています。

今日ご入学の皆様には、その社会的な要請に応える確かな力をこの大学で身につけていただきたいと思いを。

そのためにお茶の水女子大学では特色のある教育体制を整えています。それは、リベラルアーツ教育、グローバル教育、そして、リーダーシップ教育です。

リベラルアーツ教育は、社会的課題を意識し解決するために、多角的に探究する方法の習得を目的としています。これを、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」と名づけました。

グローバル教育については、2年前に文部科学省の事業である「グローバル人材育成推進事業」の実施機関として選ばれたことを契機に体制を強化しています。この事業を全学的に展開しているのは、国立大学では四大学だけですが、とくに本学では、学生の海外留学の利便性を考慮して、他大学に先駆けて今年度から四学期制を導入することにしました。

海外の協定大学もこの5年間で30大学から60大学と倍になりました。環境は整っているはずですが、皆様には、この機会を積極的に活用していただきたいと思いを。

とはいえ、グローバル教育は当然のことながら、海外で学ぶことだけが主眼ではありません。むしろ、文化の多様性、思考の多様性、価値の多様性を体感し理解することだと私は考えています。

本学では、2002年にアフガニスタンの女子教育支援を開始して以降、途上国女子教育支援活動を行ってきましたが、それは単なる支援を意味するだけではなく、学生や教職員が他の文化を学び、それによって成長することも意図していました。

様々な環境にある人々と共にあることを意識するのも、グローバルな視点のひとつであると考えています。

それはまた、リーダーシップ教育としても重要な観点です。



(注)『東京国立女子大学設置認可申請書類』付録書「東京国立女子大学の性格について」による。



リーダーシップは、他の存在に配慮し、自らが持てる力を発揮してその場を担い、組織を効果的に機動させることだと私は理解しています。それは単に強権で他者を従わせることを意味するのではないはずです。そのため大切なことは、自分の意志をもち、適切な判断ができることであり、その基盤をなすのが専門性であり確かな知識です。

そこで、リベラルアーツ教育、グローバル教育、リーダーシップ教育の基盤となり、お茶の水女子大学の学部での専門教育の最大の特徴をなしているのが、「複数プログラム選択履修制度」です。この制度は、学生が主体的に学び、適切に判断のできる資質を高める教育システムです。

こうした教育体制は、本学が規模において、また、分野を異にする専門家が日常的に交流している環境があることによってはじめて可能なものであり、さらに、優れた学生の存在によって実現できるものです。

教育には三様の在り方があるといわれます。

一つは、知識を伝達する教育、第二には、崇拜する人への敬愛や権威への追従という形でなされる教育、そして第三に、学生の主体的な探求心と、教える者の知が交錯し、協働する教育の在り方です。(カール・ヤスパース『教育とは何か』)

大学でなされるべき教育は、とくにこのうちの第三の教育ですが、そのためには、主体的に学ぶ意欲のある優れた学生の存在が大前提です。

これらの点を考えてみると、そうした教育はこの大学でなくてはなしえない教育の姿のように思えます。

そこで学生の皆様に期待しているのは、視野を広げ、高度な専門的知識を習得し、何より主体的な思考態度を身につけることです。高等学校までの学びは、問いに対する正しい回答を得るための教育でしたが、この大学で皆様は、答えを見出すだけでなく、主体的に、自らが問いを立て、いくつもの答を試す学びの場に身を置くこととなります。

そのときに大切なのは、豊かな知識と、そして勇気です。Sapere aude! という言葉があります。

「知る勇気をもて」などと訳されますが、ドイツの哲学者カントは、この言葉を、「自分の理性を使う勇気を持って」と解釈しました。(カント『啓蒙とは何か』)

他人の指示を仰がなければ判断ができない者は未成年の状態であり、それは、自分の理性を働かせる勇気がないことでもある。そこで、「自分の理性を使う勇気を持って」、未成年の状態から脱することが重要である、というのです。

大学での学びも同じように考えられます。

主体的に学び、適切に判断する力を身につけること、つまりそれは「知的な成人」へと成長することを意味しています。他者の判断に依存するのではなく、自らが判断する力を身につけることです。

私達が今いるこの大学講堂は、「徽音堂」と名付けられています。

徽は「しるし」、「徽音」は美しい音、美しい声、優れた教え、などの意味があるといわれています。いわばこの空間は「優れた知の象徴」といってよいかもしれません。お茶の水女子大学では、入学式や卒業式など、大学にとって大切な行事をこの講堂で行います。

今まさに入学式を行い、皆様の大学生活が始まりました。4年後、知的に成人し、広い視野と深い専門性と、適切な判断力つまり高い見識を身につけて、ここから次のステップへと確かな歩みを進められますことを心から期待しています。

本日入学された515名の新生にご入学のお祝い申し上げ、そして皆様の学生生活が豊かで爽り多いものとなりますことを願い、告辞といたします。

ご入学まことにおめでとうございませう。

平成年 26年 4月 4日

学長 羽入 佐和子



平成 26 年度 入学式
学長告辞

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学では、授業以外でも学生が主体となって、様々なことを学べる場がたくさんあります。その中でも、今回はサークル活動（Ochas）と、お茶大 SCC での寮生活をご紹介します。



Ochas（オチャス）は食物栄養学科の学生を中心とした約150人の有志による、大学公認サークルです。2006年、「授業で学習したことを実践に移す場がほしい!」と考えた当時3年生の食物栄養学科一期生がこのサークルを立ち上げてから9年目。現在、「食べる幸せ」を届けるサークルとして、食に関する正しい知識の発信や商品開発をはじめとする活動を行っています。

5月28日（水）～6月3日（火）に開催された、第7回『大学は美味しい!!』フェアにお茶の水女子大学として出展しました。このフェアは、「大学ブランド食品」を発信・販売するべく毎年全国各地の大学が集まって行う新宿高島屋の人気イベントです。Ochasからは、お茶3種（ハーブ&ほうじ茶、ロゼ・ウーロン茶、カモミール&マルベリー緑茶）と、お菓子2種（ときわこまち、お茶とお豆のパウンドケーキ）を販売しました。Ochasメンバーがコンセプトや配合・レシピを考え、お茶は鹿児島県の株式会社下堂園、お菓子は文京区の本郷三原堂に製造していただいている製品です。今回のフェアへの出展を通じて、私たちの活動がたくさん

の方々の協力によって成り立っていることを再認識しました。学生主体で、春休みから3か月間かけて装飾品、販売台の搬入などの事前準備を行ってきましたが、社会経験が少ないため至らない点も数多くありました。当日の運営や在庫の発注管理などに行き詰まったときには業者の方々、大学職員の方、先生方、OG・先輩方の支えのおかげで、無事1週間終えることができました。期間中、商品を手にするたくさんのお客様から、笑顔と応援の言葉をいただき、販売できる喜びを感じました。

Ochasは8月に文京区で行われる「ぶんきょうHappy Vegetable大作戦」にも参加する予定です。今後も社会に向けて「食べる幸せ」を発信していきたいと思っています。



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

お茶大 SCC

お茶大SCCは「ともに住まい、ともに成長する」をコンセプトとした新しい学生寮です。平成23年度に開設し、今年で4年目を迎えます。1・2年生を対象とし、在寮期間は2年間です。学部や学年の異なる5人で1つの「ハウス」を形成しています。多彩な学生支援プログラムも準備されており、学内外からも注目されています。



- ・学修プログラム講演会(学長)
- ・SCC オリエンテーション
- ・防災訓練
- ・新入生交流企画
- ・ウェルカムパーティ

1年生からの「入寮日に1年生同士の顔合わせがあればいいなあ」という声を元に、3年生のSCC-RA*を中心に、新入生同士の交流を目的とした交流企画を実施しました。ウェルカムパーティーは2年生が企画します。他のハウスの人とも交流できる絶好のチャンスです。



*SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント) : SCCに2年間在寮経験がある3年生による、寮生(学部1・2年生)と共に生活しながら、学修プログラム、交流プログラムなどの活動を支援する制度です。

- ・学修プログラム発表会
- ・清掃ワークショップ

年に3回「学修プログラム」を実施しています。昨年は学長の講話の他に、食物栄養学科の先生と芸術・表現行動学科の先生にお越しいただき、ご講話いただきました。講話の後は、課題が提示されます。ハウスメンバーで協力して発表の準備をします。準備の中で、この人はこういうことが得意なのか、と発見の連続です。無事に発表が終わったときはハウスメンバーとの結束もより強くなります!

学修プログラムの内容は寮生の希望を元に、どの先生にご講話いただくか検討し、依頼や調整も含め、寮生たちで行います。講話の中では、「女性の生き方」について話していただくこともあり、授業とはまた違った、先生達のキャリア観に触れることも。少人数で質問しやすい雰囲気もあり、いろいろな話が聞けて、勉強になります。

- ・学修プログラム講演会
- ・寮生交流ワークショップ

- ・学修プログラム発表会
- ・学部オープンキャンパス SCC 紹介

- ・夏季大掃除

夏休みは実家に帰省する寮生が多く、夏休みが終わり、ハウスメンバーがSCCに揃った頃には全国各地のお土産が勢揃い!また、短期留学にいたり、ハウスメンバーと一緒に旅行にいたりする人も。

寮祭ではカフェを開いたり、クッキーにデコレーションをする手作り体験をしたり、ハウス毎に工夫を凝らし、寮生だけでなく、保護者の方、地域の方をおもてなしします。昨年は女子高校生やその保護者の方もご招待しました。



大学に近いという環境もあり過ごしやすく、また、先輩や同級生と生活する中で、目標となる人ができたり、一人暮らしをするよりも何倍も成長できる場所です。

- ・寮祭
- ・次年度 RA 説明会

- ・学修プログラム講演会
- ・寮生 OG 懇談会
- ・RA 選考



SCCはどんな場所ですか?

様々な価値観を持った人がいて、興味の対象が全く違う人と交流できるよい機会。自分の視野も広がりました。

- ・学修プログラム発表会

学ぶ対象と違ってなかったことをいっぱい学べます。いろいろなことにチャレンジしていて、年々成長している寮だな、と思っています。

- ・年度末大掃除

楽しいことも、嫌なことも、共有することができて、一人暮らしをするよりも何倍も成長できる学生寮です。



- ・RA 研修
- ・次年度役職決め
- ・新2年生とRAの交流会

協調性と柔軟性のある自立した学生に成長した証として、学長から修了証が授与されます。修了式の後は、1年生主催のさよならパーティーを実施。今年はパンケーキパーティーをして2年生とSCC-RAを送り出しました。

- ・SCC 修了式
- ・さよならパーティー
- ・新2年生向けワークショップ
- ・居室替え

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科文化科学系助教の難波知子先生をご紹介します。難波先生は、大学院では比較社会文化学専攻生活文化学コース、また学部では生活科学部人間生活学科生活文化学講座にご所属です。

着て、楽しむ 楽しんで、学ぶ

Q ご出身、ご経歴などについて教えてください

出身は岡山です。高校まで岡山に住んでいました。大学と大学院はお茶大です。お茶大の入試の日に初めて東京に来ました。岡山のあたりですと、大学進学では関西圏の大学に行く人が多かったように思います。私も初めは東京にまでは行かないで、大阪のとある大学の住居学科に進もうと考えていました。住むことや着ることに関心があったからです。しかし、その学科の数学の試験に自信がなかったので、国立大学で服飾に関して学べるところを探して、お茶大の生活科学部人間生活学科生活文化学講座を受験しました。特にはっきりとした目標をもって入学したわけではありませんでしたが、学部の入学式直後の自己紹介で「大学院まで進学したい」と言ったことを覚えています。卒業後会社で働く自分の姿はイメージできず、何かの専門家になれたらと漠然と考えていました。学部卒業後、お茶大の大学院に進学し博士後期課程を修了しました。2012年4月にお茶大の助教に採用されました。

Q ご専門は？ 現在のご専門に興味を持たれた理由を教えてください

「日本服飾史・服飾文化論」を専門にしています。特に、近代日本における学校制服史および制服文化を研究しています。

私が、生活科学部の生活文化学講座の学生として勉強をしていた頃は、小池三枝先生や板倉壽郎先生など旧被服学科で長く指導されておられた先生がまだご在職でした。生活文化学講座に服飾分野がまだまだ残っていた時期と思います。しかし卒業論文では、服飾とは関係なく、サッカーがブラジルと日本でどのように根付いてきたかについての研究を行いました。ちょうど2002年の日韓共同開催のワールドカップが大変な盛り



Namba Tomoko 難波 知子

上がりを見せていた時期で、なぜサッカーがこのように人気があるのかを知りたいと思ったからです。卒業論文の指導教員は、生活文化学講座の鈴木禎宏先生でしたが、論文を書いた後に「あなたは、やはり服に関心があるんですね」と言われました。卒業論文の中で、サポーターが着るユニフォームについて、日本とブラジルでの違いに触れていたからです。日韓W杯では、さまざまな国のユニフォームを着て観戦を楽しむ日本人の様子が「友好的」と報道されました。熱狂的なサッカーの文化圏では、自分の応援するチーム以外のユニフォームを着用することはほとんどないそうで、そうした文化の人々の目に日本人の様子は「友好的」と映ったようでした。

サッカーのユニフォームにも文化的な差異があることに気づき、修士論文で深く研究してみようと考えました。しかしスポーツのユニフォームに関する文化を論じた先行研究がほとんどなく、あれこれ探しているうちに現在の研究テーマの「学校制服」に出会うことになりました。私の出身の岡山県は、学校制服の生産が日本一です。私は小学校から高校まで、特に好き嫌いを考えることもなく、普通に制服を着続けてきました。制服といいますが、生徒管理の手段とか個性を奪うものというようなネガティブなイメージが定着していて、その中で私の制服に対する価値観も形作られていたように思います。しかし、2002年頃からいわゆる「なんちゃって制服」と呼ばれる、制服が義務づけられていないのに制服に似せた私服を着る人たちが現れてきました。私にはこのことはとても衝撃で理解できませんでした。制服が単に学校側からの管理的な規制であり、個性を奪う抑圧的なものであれば、今の時代、制服は廃止されてもよいはずですが、現実には制服は根強く存在し、むしろ好んで着たいという人もいます。制服に

は管理や規制という意味以上に、人々が求める何かがあると感じ、その正体を探りたいと思い、研究を続けています。

Q 現在、母校の教員をされていて、どのような感想をお持ちですか？

授業の一環として、着物や袴を着たりしていますが、普段なじみのない服装に学生と一緒に挑戦することがとても楽しいです。特に和服を着られるようになりたいと思っている学生が多く、そうした学生と共に、私も和服や着付けについて学んでいます。和服の着付けには、さまざまな準備や手順が必要となりますが、学生のみなさんは面白がって協力してくれます。そうした交流のなかで改めて感じたことは、お茶大生の優秀さです。とても飲み込みが早く、理解力があり、細かなところまで気がつきます。教員の私の方が学生に助けられている感じがします。

お茶大の学生へ向けてのメッセージをお願いします

教員としてはまだまだ未熟ですが、学生のみなさんと楽しく学んで成長していきたいと思っています。今年やってみたいことは、インドのサリーや日本の束帯・十二単の着付けです。実際に着用してみて、その服装文化を体感したいです。ご興味をお持ちの方は、ぜひ一緒に着て体験しましょう。

文責：仲西 正
(大学院人間文化創成科学研究科
自然・応用科学系教授)

卒業生紹介

コケはわが人生の友 ～学芸員として働く～

Uzawa Mihoko 鵜沢 美穂子

コケとの出会い

「こんなに小さいなりに生きているんだ!」
胞子をふわふわと飛ばして子孫を残そうとする命の営み。高校の下校途中、畑のふちに広がるゼニゴケの大群落がふと目に入った。近づいてじっと眺めてみると実に面白い。今まで見たこともない奇妙な形状、小さいけれど精緻なつくり感動した。

「それ以来、歩くたびにコケが気になり、さらにコケ以外のミクロな生きものの多様性にも気づくようになりました。」

思えば、幼稚園の頃から、物知りの祖母に道端の草花の名前を覚えてもらっては図鑑を広げ、「新しい植物を見つけてみたい」と夢見る少女だった。

お茶大理学部生物学科に進み、一度は当時主流の分子生物学の道に心が揺れたものの、卒論は「やっぱり好きなコケを研究対象に」と思い直す。研究室を訪ね歩き、植物形態学の山下研に入ると、そこから、もう一人の恩師との出会いがひらかれた。コケの専門家である国立科学博物館の樋口正信先生を紹介され指導を受けたことが、その後の鵜沢さんの「コケ人生」に大きな影響を与えることになった。学部卒業時には、コケの研究ができ、同時にその魅力を人に伝えていく仕事をライフワークにしようと思った。学芸員への道がスタートした。

学芸員の醍醐味

身近にあるけれど、実はあまり知られていないコケ植物。2013年にミュージアムパーク茨城県自然博物館で開催された企画展「こけティッシュ 苔ワールド!」は、その知られざる魅

ミュージアムパーク 茨城県自然博物館 学芸員

千葉県生まれ。2006年お茶の水女子大学理学部生物学科卒。2008年東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻修士号取得。2011年同大学院博士課程退学。2010年から現職。
専門はコケ植物の形態・発生学。顕微鏡写真や動画などの撮影が趣味。

力を総合的に紹介した大型展覧会として話題をよんだ。この企画を担当した学芸員が鵜沢さんだ。

「コケティッシュは『魅惑的な』という意味で、女性の持つ美しさを表現するのに使われます。コケはともすると、『わび、さび』の世界で語られることが多いのですが、企画展ではそれを打破し意外性を引き出したかったのです」と、意図を語ってくれた。

実は、博物館が一番多い客層は小さい子供と母親の親子連れだ。鵜沢さんは自分とも年齢の近い若い女性や子供の目線にたって企画を練った。「うんちく」ではなく、コケのもつ「多様性と美しさ」を親しみやすく訴求しようと、カラフルでポップな展示を工夫した。「数年前からあたためてきたアイデアを形にすることができました」と微笑む。

企画展の入場者は3か月で14万人を突破した。安堵の思いとともに、鵜沢さんはこれまでの道のりを振り返って、「運」とそれを掴みとる日頃の努力の大切さを痛感していた。

「熱意は奇跡を生む」

多くの学芸員のポストには国家資格が必要だ。東大大学院の生物学修士課程に進み、学芸員の資格は取得できたものの、今度は職がないという厳しい現実には鵜沢さんは直面する。絶対数としてポストの空きが出ないことに加え、専門性をいかそうとすると選択肢が更にせばまる。大学院に在籍し、研究活動に苦勞しながら、いつ空くかわからないポストを延々と待つ日々は「鬱々と辛い時があった」と振り返る。



2010年、チャンスは突然やってきた。茨城県自然博物館が学芸員の公募を出したのだ。しかも、非維管束植物（コケや藻類、菌類など）担当だ。近場で比較的専門に近いポスト。「こんな機会は10年に一度も巡ってこない。これを逃したらもう次はない」と背水の陣で試験に臨んだ。

現在の鵜沢さんの仕事は、県内のコケ植物の調査、標本の整理、入館者や学校への教育活動、展示企画、紀要の編集など多岐にわたる。「忙しいけれど、この仕事に就けたのは『奇跡』だと思うので、一生をかけてコケの奥深い世界を伝えていきたい」と語る。

大学生の頃、たまたま露店で小さな色紙を買った。「熱意は奇跡を生む」と書かれたその色紙はいまも部屋の片隅に飾られている。

高校時代のコケとの「衝撃的な出会い」から10年以上の月日がたつ。コケは遠ざかったり近づいたりしながら、鵜沢さんの傍らにある。いつも、これからも。

文責：坪田 秀子（学長特命補佐）



豊かな緑に囲まれた「ミュージアムパーク茨城県自然博物館」
<http://www.nat.pref.ibaraki.jp/index.html>

わたしのオフタイム

休日は、まず体を休めて英気を養う。そして家事や買い物でリフレッシュというのが定番だ。仕事柄、各地に出向くことが多いので、旅先で美味しいものを食べ、温泉につかるのが束の間のオフタイム。

附属学校園からのお知らせ いずみナーサリー



いずみナーサリー

(以下、ナーサリー)は、お茶の水女子大学にある0~2歳児の乳幼児のための小さな保育施設です。2002年にいずみ保育所として誕生し、2005年にお茶の水女子大学附属の「いずみナーサリー」に名称変更し、職員宿舎の一部を改築した、今の姿になりました。国立大学法人が附属としてこのような乳幼児保育施設を設置・自立運営することは非常にめずらしく、そのためもあってか、国内外からの見学者が訪れることもしばしばです。

ナーサリーの大きな特徴のひとつは、主な保護者である学生や教職員の仕事や研究教育活動に応じて、「日数選択制」をとっていることです。月曜日から金曜日まで毎日やってくる子もいれば、週に1日だけ利用している子もいます。一人ひとりの子どもの多様な姿や保護者の多様な要求に応えつつも、どの子も仲間

の中でその子らしく豊かに育っていくための、連続性や統一性のあるカリキュラムの保証、「子どもがいきいきと生活できる場」が実現することをめざしています。また、子どもたちの育ちに触れることで、大人も育ち、ひいては大学というコミュニティが生き生きと活力のあるものになっていくことにも寄与したいと考えています。

ナーサリーには現在20余名の子どもが在籍し、毎日8時半から5時半まで、子どもたちが保育者やお友だちと一緒に過ごしています。お散歩をし、皆で昼食やおやつを食べ、お昼寝をし、保育者に見守られてたつぷりと遊んで、人生の始まりの時代をその子らしく過ごしています。小さな子どもたちの、寝たり食べたり排泄したり、という「生活の場」が大学内にあることの意味は、もしかすると小さくはないのかもしれない、と手前

みそかもしれませんが思っています。元学長の本田和子先生(児童学)は、お茶大に乳児保育の場があることを「大学の中に赤ちゃんがいる」と表現され、その後のナーサリーで、「大学の中に赤ちゃんがいる」「大学の中で赤ちゃんが育つ」「大学の中で赤ちゃんが笑う」I・II」と題する報告書が順次発行されることにもつながっていきました。

さて、子どもたちはほぼ毎日、キャンパス内をお散歩します。キャンパスでは、守衛さんや大学教職員の方々、学生さんたちにも出あい、また、図書館わきの池の亀やネコたち(通称「お茶ネコ」)、カエルやだんご虫やたくさんの草や木にも出あいます。「ひろば」(学生会館横)のくさはらは、走るにも止まって何かを見つけるにも格好の遊び場です。「なかにわ」(本館中庭)の台車や車いす用のスロープは、友だちと駆け下りるには打ってつ



附属学校園での出来事 (2014年4月～6月)

【いずみナーサリー】

4月

- 第2回避難訓練
- 第1回保護者会

5月

- 第3回避難訓練
- 教育後援会総会
- 保育参観

【附属幼稚園】

4月

- 5歳児遠足(小石川植物園)
- PTA総会
- 避難訓練
- 4月誕生会
- 4歳児親子で遊ぶ日
- 同窓会ちくさ会主催第16回ホームカミングデー
- 五月人形飾り付け

5月

- 子どもの日の集い
- 健康診断
- 年長保護者対象小学校説明会
- 親子遠足(新宿御苑)
- 学内保育公開
- 5月誕生会
- 避難訓練(引き取り訓練)
- CAP講習会(5歳保護者対象)

6月

- 親子で遊ぶ日(5歳児・3歳児)
- 6月誕生会
- ジャガイモ掘り

【附属小学校】

4月

- 離着任式
- 第1学期始業式
- 入学式
- 給食開始(2年生以上)
- 保護者会(各学年)
- 校外学習(2、4、6年)
- 委員会活動(5、6年)
- 新入生を迎える会
- 避難訓練
- 1年生給食開始
- 全国学力学習状況調査(6年)
- 通学班別会
- かがみ会合同委員会
- 健康診断

5月

- 授業参観
- 保護者総会
- 教育後援会総会
- かがみ会総会
- 帰国保護者会(4、5、6年)
- 幼小連絡会
- 郊外園活動(サツマイモ植え)(3、4年)
- 避難訓練(大地震想定)
- 登校指導(かがみ会)
- 校外学習(6年)
- 運動会

6月

- 安全教室(1年)
- 引き取り訓練

6月

- 第4回避難訓練
- 個人面談

【附属中学校】

4月

- 入学式
- 始業式
- 保護者会
- オリエンテーション(1年)
- 学力テスト(3年)
- PTA委員全体会
- 歓迎会
- 任命式
- 避難訓練
- 修学旅行(東北方面：花巻・平泉・遠野・釜石)(3年)
- 全国学力調査(3年)
- 理科校外学習(江ノ島)(2年)

5月

- 健康診断
- 生徒総会
- PTA総会
- 教育後援会鏡水会総会
- 郊外園(サツマイモ植え付け)(1年)
- 体育大会

6月

- 中間テスト
- ファミリーの会(PTA主催)
- 3年郊外園(ジャガイモ収穫)
- 鑑賞教室
- 学校評議員会

【附属高校】

4月

- 入学式
- 始業式・着任式・対面式
- マレーシアからの留学生
- 新入生オリエンテーション
- 新入生防災訓練(池袋防災館)
- 3年修学旅行(鹿児島 屋久島 種子島)
- 避難訓練
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 各学年保護者会
- 健康診断

5月

- 1年学年合宿(諏訪・甲府方面)
- 3年学力テスト
- 2年遠足
- 3年校外学習
- 1年農場実習(サツマイモの植え付け)
- 体育祭

6月

- 面談週間
- 自治会総会
- 保護者授業参観
- 第1回学校説明会

附属学校園からのお知らせ



けですし、掲示塔の“林”は、かくれんぼにもってこいです。

室内でもさまざまな活動(遊び)が展開します。木製モノづくりのプロの方と一緒に考えて作ってもらった大型遊具での遊び、おままごとやプラレール、積み木やパズルなどの遊びの他に、フィンガーペインティングなどの造形活動・描画活動、リズム遊びなどもします。たまねぎの皮やソラマメの皮をむいたりすることもあります。自分たちでむいたたまねぎの入ったお味噌汁はとってもおいしくて、おかわりする人続出です。

ナーサリーは、幼い子どもとその傍らにいてくれる保護者のための、小さな小さな保育施設ですが、見守ってくださる多くの方たちやささやかにふれあう人たちにとっても、風通しのよい、小さなひだまりのような場所でありたいと思っています。



キャンパス点描

お茶大女性ビジネスリーダー育成塾： 徽音塾の開講式が行われました。

2014年5月10日(土)、大学講堂「徽音堂」にて「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」の開講式が行われました。

開講式は壇上で行われ、徽音塾初の受講生となる5月塾生17名が出席しました。

当日は本学芸術・表現行動学科音楽表現コース4年生のピアノ演奏から始まり、入塾者全員の呼名がなされました。続いて羽入佐和子塾長より、「グローバルな視点を持ちつつ社会で活躍する女性リーダーの育成」という本学の使命と、「塾生が女性リーダーとして新たな一歩を踏み出すこと」への期待が語られました。

また、塾生代表挨拶では、ご自身の今後のキャリア形成において知識・スキルのブラッシュアップとリーダーシップの発揮が求められており、徽音塾で様々な刺激を受けたいという旨のお話をいただきました。

最後に、芸術・表現行動学科音楽表現コース合唱団による「みがかずば」の合唱とピアノ演奏によって式は締めくくられました。

徽音塾は社会人女性のキャリアアップを支援するために今年度からスタートした生涯教育講座であり、社会で活躍する女性たちのリーダーシップ形成とネットワーク構築をめざしています。春学期は「女性のエンパワーメント」(5月)と「組織マネジメントとリーダーシップ」(6月)の2講座を開講し、秋学期には「経営戦略・マー



ケティング」(10月)「コーポレート・ガバナンスとIR」(11月)、冬学期には「財務会計」(1月)と「企業法務・労務管理」(2月)が開かれます。秋学期、冬学期の講座は学期前にそれぞれ受講生募集を行います。詳しくは徽音塾HPをご覧ください。

<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/>

第6回 ホームカミングデイを開催しました。



第6回目となるホームカミングデイが、2014年5月31日(土)、開催されました。

午前の部には、前回は大きく上まわる約550名の卒業生・修了生・在校生が集いました。羽入佐和子学長の挨拶、本学同窓会の遠藤由美子桜蔭会会長のご挨拶の後、本学の発展に多大な貢献をされた方々に名誉学友記及び感謝状の贈呈が行われました。

全学企画イベント トークセッション「柴門ふみと川上弘美のよもやまばなし」では、本学卒業生である漫画家でエッセイストの柴門ふみさんと作家の川上弘美さんによるトークセッションが行われ、貴重なお話を聞きながら、本学卒業生と在校生が楽しいひとときを過ごすことができました。

午後の部では、学部・学科・コース企画による講演会や交流会、歴史資料館特別公開、卒業アルバム特別公開、在校生によるキャンパスツアー、お茶室「芳香庵」公開(呈茶)、大学グッズ販売などが催されました。



みがかずば奨学金授与式及び 学部生成績優秀者奨学金授与式を挙りました。……………

2014年5月21日
(水)、平成26年度みがかずば奨学金授与式及び
学部生成績優秀者奨学金
授与式を挙りました。

みがかずば奨学金は、
お茶の水女子大学へ入学

を希望する受験生に対して、入学後の生活の目処をたててもら
うことを目的として、平成23年度に設立されたものです。今年度は、
入試前に出願し内定を得た者の中から、本学に入学した20名の
学部1年生が受賞となりました。

学部生成績優秀者奨学金は、学部3年に在学する者のうち、1・
2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者について、これまで
の努力を評価し、今後一層の勉学を奨励することを目的として、平
成23年度に設立されたものです。今年度は、学部1・2年次から



引き続き在学する本学学部3年生（中途に休学期間がない者に限
る。）の中から、厳正なる審査の結果、25名の学生が受賞となり
ました。

式典では学内教職員臨席のもと、羽入学長から賞状を授与され
ました。また、羽入学長、遠藤桜蔭会会長及び池上後援会会長か
らお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨学金受賞者の中から1
名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への意気込み
について挨拶を述べました。

平成26年度 高校教員等(高校・予備校)向け オープンキャンパスを開催しました。……………

本学では、昨年度から高校等の先生方を対象としたオープン
キャンパスを開催しており、第2回目となる今年度は6月14日
(土)に開催し、46の高校から50名の先生方にご参加いただき
ました。

オープンキャンパスは2部に分かれており、第1部では各先生方
からパワーポイントによる説明、第2部では個別相談ブースや学内

ツアーを行いました。

第1部では昨年度に加え、
本学が力を入れているグ
ローバル人材育成の取り組
みとして海外留学支援につ
いてのプログラムを追加し、



第2部では、個別相
談ブースを講堂内

に設置したことや、3学部長に個別相談ブースの担当をし
ていただいたことで、たくさんの先生方に相談ブースまで
お越しいただくことができました。

来年度も開催いたしますので、たくさんの先生方にご
参加いただけるよう更に工夫を凝らし企画して参ります。



キャンパス点描



キャンパス風景
提供:お茶の水女子大学写真部

お茶の水女子大学学报 第241号

▽発行日:2014年7月19日

▽発行:国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚2-1-1(〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話:03-5978-5105

FAX:03-5978-5545

E-mail:info@cc.ocha.ac.jp

URL:http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。